北川圭一講師はじめ豪華な講師陣

●この回の講師は北川圭一氏（写真中央）のほか、国際ライダーで指導経験も豊富な中井直哉氏、スズキ開発ライダーの犬木 翼氏と大城 光氏、大阪国際大学准教授で心理学を専門とする山口直紀氏

●「神経を重ねて上手くなる目的は、技術を高めて安全マージンを大きく取れるよう余裕を持つため。公道で速く走れるようになるため、ではありません」と北川さん

広大なコースで"余裕の技術"を身につける

EVENT REPORT スズキ北川ライディングスクール in 竜洋

●開催日　6月26日（日）　●場所　スズキ二輪技術センター内竜洋コース（静岡県磐田市）

①朝の座学からスクールは始まる。座学は昼食後にもう1回あり、それは講師の山口直紀氏による「交通心理学」の講義。心に攻撃性を抱きがちなライダーの心理を分析、いかに精神的余裕を持つことが安全に繋がるかを学ぶ　②向き変えの第一歩、8の字走行。最初はアイドリング走行、次第に加速とブレーキングも活用して……と徐々にペースを上げていく。肝はどこで曲がるかという「視線」と下半身のホールド。自分ではやっているつもりでも、まだ甘いというのに気付かされる……　③最初はコースを覚えるだけで一杯だったスラローム。慣れてくると全身を使って車体を操るスポーツライディング的な楽しさも感じられた　④最後はハイウェイコースを用いてのハイスピード体験。竜洋コースを1周するという貴重な体験も！

朝、竜洋コースに着いて正直ビビった。続々と並ぶ参加者の車両は、ほとんどが新旧のハヤブサやGSX-Rシリーズ。初心者やリターンライダーもスキル向上のため参加していると聞いていたが……その光景を見て「実際はスポーツライディングに特化した難易度の高いスクールなのでは？」と腰が引け始めたのである。

しかし、北川講師が発した第一声は「一番大事なのは絶対に転ばないこと。転倒すればバイクが嫌いになってしまいます。それはイヤですよね」という柔らかい言葉。それを聞き、スクールの雰囲気が決して上級者限定ではないことを実感した。

カリキュラムで中心となるのは、ライディングで一番難しい「向き変え」と、「全身で車体を操る」こと。そのため走行時間のほとんどは8の字走行やスラローム走行に割かれ、これをヘトヘトになるまで繰り返す。「転ばないためには80%で走るのが大切」と北川講師は言うが、基本技術を熱心に磨くことでキャパシティを上げれば、80%でできることが増える。つまり、よりスムーズな走行ができるだけでなく、自分にできる危険回避の引き出しも増えたりする、というわけなのだな。

終了後、参加ライダーの感想を聞いたところ「反復練習で上手くなっていくのがよくわかる」という声が多かったのだが、その上達の実感が、このスクールに常連さんが多い理由なのだろう。

参加者インタビュー

GSX-R1000で参加の 大田英之さん

●知り合いから誘われ、竜洋のコースが走れるのがスゴイ！と参加してみたところ「今はパイロンスラロームが面白いです」。このスクールを経験したこともあり、サーキットデビューも果たしている

ハヤブサで参加の 田村 茂さん

●ショップで薦められたのがきっかけで去年から参加し今回で7回目。「苦手な低速での操作を沢山練習できるのがこのスクールのいいところです」。術なかなどの最段の走り方も変わってきたそうだ

GSX-R1000で参加の 中田さん

●参加は3回を数えるものの「スラロームは奥が深く、練習するたび教えられている感じがする」。とっさの危険をうまく回避できるようになり、学んだことは公道で本当に役に立っているという